

授業科目	医療と倫理				実務家教員担当科目	○	
単位	1	履修	選択	開講年次	1	開講時期	後期
担当教員	定永 敦司						
授業概要	<p>高度に発展を続ける現代医療をめぐるさまざまな問題は、私たちの道徳的理解よりはるかに速いスピードで変化しつづけます。現場に臨むと、自分の中で生じたモヤモヤした感覚を言語化できないまま、ただ、そこに立ちすくむしかない時もあります。それでも現場はものすごい速さで進んでいきます。この波に飲まれて、気づけば、これが自分が本当に目指していた医療だろうかと思う壁に突き当たります。このとき、「倫理的」な視点や思考力は、波の中で踏みとどまるための力となります。本講義では、25年余、難病の子どもの診療や倫理コンサルテーションに携わってきた臨床医の立場から、具体的な場面を提示し、共に考えながら、語らいながら、杭となる理論や考え方、そして実践方法を見出していきます。</p>						
授業形態	講義 以下、講義は基本的に 対面講義を予定して いますが、状況により 遠隔講義に変更 になることもあります。	授業方 法					
学生が達成すべき行動目標							
標準的 レベル	<p>医療に関わる倫理は大まかに二層構造になっています。</p> <p>「どのように患者さんにがんの告知したらいいか」「終末期に治療を中止する際にはどのように話し合えばいいのか」「認知症の人を対象とした研究はどうやって行えばいいか」といった手続き的な議論をする「臨床倫理」と、「いのちとは何か」「死を自己決定できるのか」「医療とは何か」といった哲学的な問いを含む「生命倫理」とがあります。</p> <p>講義を通じて、臨床倫理～生命倫理の考え方の基盤となる知識を身につけ、目の前に生じている問題を倫理的に把握し、整理できることを目指します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 医療に関わる倫理を学ぶために必要な基礎知識（倫理理論や原則など）について理解し、説明できる 2 患者の権利、医療者－患者関係に関わる倫理的問題について理解し、考えを整理することができる 3 死に関わる倫理：終末期から死をめぐる倫理的問題について理解し、考えを整理することができる 4 生まれてくることに関わる倫理：生殖医療、周産期（出生前後の）医療をめぐる倫理的問題について理解し、考えを整理することができる 5 みんなの公平や安全を守る倫理：医療資源の配分、医療安全をめぐる倫理的問題について理解し、考えを整理することができる 6 研究倫理：研究や先端医療開発をめぐる倫理的問題について理解し、考えを整理することができる 7 具体的事例について、倫理的な視点で考察し、議論ができる <p>講義で学習した倫理的概念、思考方法について理解し、具体的な問題に際して、倫理的な気づきを整理できる</p>						
理想的 レベル	講義で学習した倫理的概念、思考方法について理解し、具体的な問題に際して、倫理的にアプローチし、他者と議論ができる						
評価方法・評価割合							
評価方法		評価割合（数値）			備考		
試験		40%					

小テスト	60%										
レポート											
発表（口頭、プレゼンテーション）											
レポート外の提出物											
その他											
カリキュラムマップ（該当 DP）・ナンバリング											
DP1	○	DP2	○	DP3	-	DP4	-	DP5	-	ナンバリング	NU11114J
学習課題（予習・復習）										1回の学習目安 （時間）	
講義で学んだ内容を復習する										4	
授業計画											
第1回	1) 導入 医療をめぐる倫理に関する歴史的な出来事、および、それに沿って生まれた概念や理念、原則など紹介										
第2回	2) 考え方 倫理的問題について考えるときの具体的なステップを紹介										
第3回	3) いのちの終わりに関する倫理 終末期から死に至るまでの倫理的問題についての考え方										
第4回	4) いのちの始まりに関する倫理 生殖医療や周産期医療における倫理的問題についての考え方										
第5回	5) 医療資源の公平分配・医療安全についての考え方										
第6回	6) 研究や先端医療技術に関する倫理的問題の考え方										
第7回	7) 事例検討① 具体的事例を通じて、倫理的気づきを言語化し、議論を試みる										
第8回	8) 事例検討② 具体的事例を通じて、倫理的気づきを言語化し、議論を試みる										
テキスト	毎回、資料を配布します										
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	参考図書 1) 「教養としての生命倫理」、村松聡ら編、丸善出版：基本的な用語や概念などが見開き2ページで概説されています。 2) 「シネマの中の人間と医療」、浅井篤編、医療文化社：映画や小説は倫理を学ぶとても良い材料になります。参考までに。 ほか、適宜、講義の合間で紹介します。										
課題に対するフィードバックの方法	小テストと試験において、講義で学んだ概念や理論の知識定着と、それらを正しく活用できるかについて、評価します。また学ぶ姿勢、考えを深めようとする姿勢についても、評価します。 （小テスト60：試験40）										
学生へのメッセージ	今まで日常生活のなかで、あるいは社会問題について感じてきた疑問や違和感、関心などを持ち寄り、思考のアンテナを立てることが大切です。										

ジ・コメント

そして、本学入学後、1年前期に学んだ総合人間学や基礎看護学の知識・概念を基盤としつつ、参加してください。

講義の中では、さまざまな話題を通して、皆さんとともに考え、語り合う体験を重ねます。知識に偏らず、対話を通じて考え方を身につけていきますので、柔軟な思考と積極的な姿勢で参加してください。

